

お盆の観光地 客足遠く

首都圏各地で前年割れ

新型コロナウイルスの感染拡大が続いた2020年のお盆期間、首都圏の観光地の多くで集客数が前年を大きく割り込んだ。遠方への外出を自粛するムードが強かったほか、連日の猛暑も相まって団体客や高齢者などが少なかった。訪日外国人(インバウンド)の需要消失も逆風となった。

東京ドイツ村(千葉県袖ヶ浦市)はお盆期間、感染防止策を徹底したうえで営業しているが、1日平均の来場者が約2000人と例年の半数程度にとどまった。例年のお盆は駐車場に遠方のナンバーを付けた車も目立つが「今年は東京や神奈川など近隣の客がほとんど」

川越の案内所は6割減

猛暑影響、年配客少なく

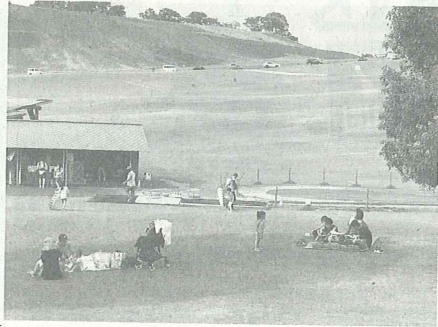
日の来場者数が約5800人と、前年同期比で86%減った。以前は訪日客の人気スポットだったこともあり、落ち込みが目立った。江戸東京博物館(東京・墨田)も同期間の来場者数が71%減少。来場者の約3割を占める団体客や高齢者の減少などが響いた。

歴史ある蔵造りの街並みで知られる埼玉県川越市も、お盆期間に川越駅の観光案内所を訪れた人が前年に比べて6割以上少なかった。年配客に人気の観光地だが「最近はお盆の観光地が『最近はお盆の観光地が』(案内所を運営するまちづくり川越)。感染リスクへの懸念のほか、連日の猛暑が高齢者の足を遠ざけたようだ。

「3密」を避ける取り組みが客数の減少につながった側面もある。夏場に人気の水遊びコーナーを休止したふなばしアンデルセン公園(千葉県船橋市)は入場者が例年の半分程度に落ち込んだ。さいたま市の鉄道博物館もチケットを原則前売り制とし、1日の来場者数を制限したことでお盆の集客が前年同期に比べて7割減った。

高く「帰省自粛で地元に戻れず、近隣で遊べる施設に足を運ぶ人が増えたのではないか」(担当者)という。江の島(神奈川県藤沢市)周辺はお盆期間も、海岸沿いの国道が1都3県のナンバープレートをつけた車で渋滞する場面がみられた。近隣にある新江ノ島水族館でも、多くの企業が夏休み入りした13、14日を中心に来場者数が比較的堅調だったという。

R東京駅周辺のお盆期間の出入(12日)は前年同日に比べて57%少なかった。帰省や遠方への旅行自粛が影響したとみられる。大宮駅の周辺は18%減、千葉駅は11%減、横浜駅は5%減だった。



東京ドイツ村の出入は前年の半数程度だった

従来は年配客が多かった埼玉県川越市の一番街近くでは若者の姿が目立つ